

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【公開番号】特開2009-163458(P2009-163458A)

【公開日】平成21年7月23日(2009.7.23)

【年通号数】公開・登録公報2009-029

【出願番号】特願2007-341475(P2007-341475)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/048 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/048 6 5 5 A

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月6日(2010.12.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ファイルを表示するウィンドウを複数表示可能な情報処理装置であって、
複数の前記ウィンドウのうち、基準となる第 1 のウィンドウと前記第 1 のウィンドウが
参照する第 2 のウィンドウを関連付けるウィンドウ関連付け手段と、
前記第 1 のウィンドウに関連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を記憶す
る表示状態記憶手段と、
前記第 1 のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、前記第 1 のウィンドウに関
連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を、前記表示状態記憶手段に記憶され
ている表示状態に基づいて復元する表示状態復元手段とを備え、
前記表示状態には、前記第 2 のウィンドウのサイズ、前記第 2 のウィンドウの表示位置
を含むことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記表示状態記憶手段は、前記第 2 のウィンドウが異なる複数の基準となるウィンドウ
から関連付けられている場合には、前記基準となるウィンドウ毎に前記第 2 のウィンドウ
の表示状態を記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記表示状態には、前記第 2 のウィンドウに表示されるファイルのいずれの位置を、該
第 2 のウィンドウに表示するかを示す表示位置を含み、
前記表示状態復元手段は、前記第 1 のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、
前記第 2 のウィンドウに表示される前記ファイルの表示位置を、前記表示状態に記憶され
た前記表示位置にすることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 のいずれか 1 項に記載の情
報処理装置。

【請求項 4】

前記表示状態には、前記第 2 のウィンドウの編集中位置を示すカーソル位置を含み、
前記表示状態復元手段は、前記第 1 のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、
前記第 2 のウィンドウのカーソル位置を、前記表示状態に記憶された前記カーソル位置に
することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記第 2 のウィンドウは、前記第 1 のウィンドウをクローズする際に、前記第 2 のウィ

ンドウが、他の前記第 1 のウィンドウに関連付けられていない場合には、前記第 2 のウィンドウをクローズし、一方、前記第 2 のウィンドウが、他の前記第 1 のウィンドウに関連付けられている場合には、前記第 2 のウィンドウをクローズしないように制御する制御手段を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記表示状態には、前記第 1 のウィンドウに表示されたファイルのファイルパスと、前記第 1 のウィンドウに関連付けられた前記第 2 のウィンドウに表示されたファイルのファイルパスを、関連ファイルとして含むことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記表示状態復元手段は、ファイルのオープン時に、該オープンするファイルの前記関連ファイルがオープン済みでない場合には、前記関連ファイルをオープンすることを特徴とする請求項 6 に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

操作者からの関連付け指示に応じて、特定のウィンドウを前記基準となる第 1 のウィンドウとし、他のウィンドウを前記第 1 のウィンドウに関連付けられる前記第 2 のウィンドウとする、操作者関連付け手段を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 9】

特定のウィンドウと他のウィンドウとの操作履歴に基づいて、前記特定のウィンドウを前記基準となる第 1 のウィンドウとし、前記他のウィンドウを前記関連付けられる第 2 のウィンドウとする、操作履歴関連付け手段を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 10】

前記第 1 のウィンドウ又は前記第 1 のウィンドウを示すアイコンの表示形態を、前記第 1 のウィンドウに関連付けられた前記第 2 のウィンドウの表示形態と異ならせるように制御する表示形態制御手段とを有すること特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 11】

ファイルを表示するウィンドウを複数表示可能な情報処理方法であって、ウィンドウ関連付け手段が、複数の前記ウィンドウのうち、基準となる第 1 のウィンドウと前記第 1 のウィンドウが参照する第 2 のウィンドウを関連付けるウィンドウ関連付けステップと、

表示状態記憶手段が、前記第 1 のウィンドウに関連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を記憶する表示状態記憶ステップと、

表示状態復元手段が、前記第 1 のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、前記第 1 のウィンドウに関連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を、前記表示状態記憶ステップに記憶されている表示状態に基づいて復元する表示状態復元ステップとを備え、

前記表示状態には、前記第 2 のウィンドウのサイズ、前記第 2 のウィンドウの表示位置を含むことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 12】

ファイルを表示するウィンドウを複数表示可能なコンピュータを、複数の前記ウィンドウのうち、基準となる第 1 のウィンドウと前記第 1 のウィンドウが参照する第 2 のウィンドウを関連付けるウィンドウ関連付け手段と、

前記第 1 のウィンドウに関連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を記憶する表示状態記憶手段と、

前記第 1 のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、前記第 1 のウィンドウに関連付けられている前記第 2 のウィンドウの表示状態を、前記表示状態記憶手段に記憶され

ている表示状態に基づいて復元する表示状態復元手段として機能させるプログラムであり、

前記表示状態には、前記第2のウィンドウのサイズ、前記第2のウィンドウの表示位置を含むことを特徴とするプログラム。

【請求項13】

請求項12に記載されたプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】情報処理装置、情報処理方法、プログラム、記録媒体

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明は、ファイルを表示するウィンドウを複数表示可能な情報処理装置であって、複数の前記ウィンドウのうち、基準となる第1のウィンドウと前記第1のウィンドウが参照する第2のウィンドウを関連付けるウィンドウ関連付け手段と、前記第1のウィンドウに関連付けられている前記第2のウィンドウの表示状態を記憶する表示状態記憶手段と、前記第1のウィンドウがアクティブな状態になった場合に、前記第1のウィンドウに関連付けられている前記第2のウィンドウの表示状態を、前記表示状態記憶手段に記憶されている表示状態に基づいて復元する表示状態復元手段とを備え、前記表示状態には、前記第2のウィンドウのサイズ、前記第2のウィンドウの表示位置を含むことを特徴とする。